

2013年度

JICA研修コースの実績紹介

コース名 : 「低炭素化社会実現のための発電技術(C)」



(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

2014年5月20日

page. 1

1. 研修コースの紹介

1)コースリーダー / 矢頭 昭治



2)研修コース 名

和文：低炭素化社会実現のための発電技術(C)

英文：Alternative Power Generation Technology for Low Carbon Society (C)

3)研修受け入期間： 2014/2/02 ~ 2014/3/07

4)参加研修員 / 6名 (4カ国)

【参加研修員の国名と位置】

参加研修員 4ヶ国 6名



【アフリカ】

カーボヴェルデ共和国
Republic of Cape Verde

ザンビア共和国
Republic of Zambia



【中南米】

アンティグア・バーブーダ
Antigua and Barbuda

セントビンセント及びグレナディーン諸島
Saint Vincent and the Grenadines



2. プログラム構成

2-1. 研修の課題

① 経済大国と比べてエネルギー消費が少ない島嶼国が対象

② 輸入化石燃料に依存し輸入エネルギーコスト高の影響による低電化率の問題を抱えている。



自国に適したエネルギーの選択や気候変動政策に生かせるよう小風力、小水力、地熱、太陽光、太陽熱、海洋エネルギー、廃棄物リサイクル、等を取り入れて、より低炭素化に繋がるカリキュラム内容とした。

2-2. 研修目標

案件
目標

研修内容を踏まえて低炭素化社会実現のための技術導入の計画が策定・提案される

自国での検討～実施



日本での研修



単元目標①
低炭素化社会に向かう必要性を理解する。

単元目標②
再生エネルギーを生成する技術とそれを促進するための問題点を理解する。

単元目標③
省エネルギー技術及を学ぶこと。

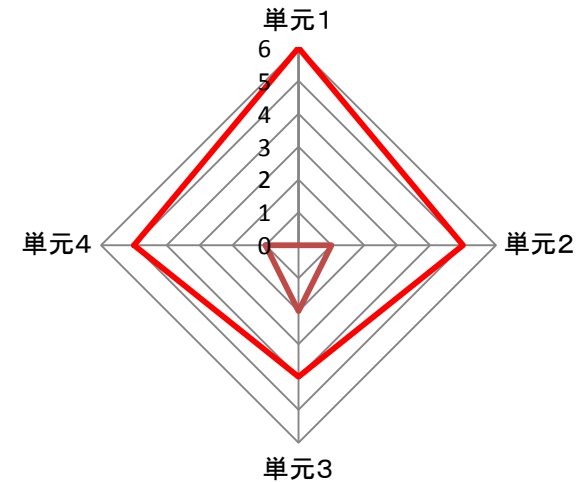
単元目標④
経済的に地域社会の環境状況を改善する有効な情報を得ること。

単元目標⑤
低炭素化社会に向け代替発電技術を導入するためのアクションプランを作成する。

3. 達成度(単元評価)

(質問票(B)の解答より)

	←← 達成		未達成 →→	
	達成		未達成	
	□4	□3	□2	□1
単元1	6	0	0	0
単元2	5	1	0	0
単元3	4	2	0	0
単元4	5	1	0	0



— 達成 □4 — 達成 □3 — 未達成 □2 — 未達成 □1



- ◆各単元とも好評な結果が得られた。前回(1回目研修)の見直し効果が表れた。
- ①科目の再考(取捨選択)
 - ・取り止めた科目と追加した科目
- ②研修期間・内容の検討
 - ・研修日数の増
 - ・再生化エネルギー施設の視察の増

4. コースリーダーの所感

1. 今年は、例年にない寒さの厳しい時期での研修となりましたが、技術研修には支障もなく無事終了することができました。
2. 各研修員は、日本で学んだ知識・技術を十二分に活用して自国発展のために貢献して頂くと確信しています。
3. 今回の研修からも改善要望等の課題も多く見受けられました。世界に目を向けますと経済成長に伴う環境破壊は進行の一途を辿っています。今後、今回の研修コースに参加された対象国も経済発展に伴いエネルギー消費量の増加が予想されます。一日も早く環境破壊を抑制して低炭素化社会の実現を推進することは益々重要な課題となっています。
4. 次年度は、最終の3回目が実施される予定ですが、更なる充実のために改善要望の検討はもとより、新規内容の検討も加えてより充実したコースに仕上げる所存で臨みます。

5. 研修員スピーチ

研修員の感動スピーチ (於：閉講式)



閉講式でスピーチされたエルジーさん

Mr. DACON Ellsworth St Clair (通称:エルジーさん)の謝辞 ～研修員代表～



◆和訳全文をご紹介します。

- 研修員代表として、本日このように挨拶をさせていただけることを大変光栄に思います。

- 低炭素化社会実現のための発電技術(C)には6名の小さなグループが集められました。4名はアフリカ大陸から、残りの2名はカリブ海に浮かぶ小さな島から来ました。ザンビアとカーボベルテから来た私の仲間達、そして隣国アンティグア・バーブーダから来た私の隣人。私達は皆それぞれ異なる境遇にいますが、共通しているのは、(1)私達は皆それぞれが考える楽園からやってきたということ、(2)その楽園を離れ、5週間をこの研修で共に過ごしたということ、この2点です。それらの共通点からして、私は、他の5人の意見を聞くまでもなく、この研修コースに参加して、皆が何を感じたか、そして何を学んだかについて明確にお話しできると思います。

- まず初めにお伝えしたいのは、矢頭さんは最高に素晴らしいコースリーダーだったということです。彼は、コースリーダーとしての要件とは何かを示してくれました。矢頭さんは、技術的な知識や経験のみならず、日本文化の背景にある歴史についても精通していました。
- 一方、鈴木さんも非常に素晴らしいコーディネーターでした。彼女の性格やおしとやかさ、研修における監理能力、また、彼女が時折発する朗らかな笑い声は、学びの場にとって理想的な和やかな雰囲気を作り出してくれました。
- この研修は、私達にとって、間違いなく「成功」でした。エネルギー問題に関して培われた専門知識やスキルを基に行われた北九州市での研修は、私達の国の持続可能な発展に必ず役立つと思います。なぜ私達が低炭素化社会を目指すべきかを理解するには、北九州の事例を見聞するのが一番であると思います。
- 私個人としては、60年前の北九州市の(公害の)写真や現在の状況を作り出すために(公害克復の)努力する姿を夜夢に見、そしてその夢が頭から消え去ってしまいそうになると、また、授業中に写真が出てきて、過去の努力の証を再度印象づけてくるといった感じでした。ですから、私達は北九州のことを決して忘れません。

- 私達の経験は、再生可能エネルギー技術や省エネ、そして、経済的且つ環境的に改善された社会の実現に必要な条件を学ぶだけにとどまりませんでした。私達にとって今回の研修は、日本文化を学ぶことでもありました。言葉では説明できない文化。なぜ日本という国がこんなにも進歩したのかについて、この国の文化を経験しなければとうてい理解できなかったでしょう。国民全員が正しく修練されていることや温かく親しみあるおもてなし、そして何よりも、日本人誰もが有する尊敬の念と謙虚さ。
- 隣国のアンティグア・バーブーダ出身の彼と私は、年中燦々と輝く太陽、海からさわやかな風、美しい海辺と緑豊かな土地があり、人々の間ではゆったりとした時間が流れる国に住んでいます。カーボベルデの二人は、私の国と同様の熱帯気候で、また大きさも同じくらいの島で、それに、おいしい食べ物と美しい人々を追加したような国から来ました。ザンビアから参加した二人は、世界七大奇景の一つである「ビクトリアの滝」のある美しい国に住んでいます。
- 私達は全員、いわゆる楽園に住んでいます。しかし、今回日本を訪れてみて、楽園というのは、国が有する物質的な要素、気候、食べ物、人々の顔の美しさだけではないということがわかりました。

- そういったものに加えて、おもてなしの心、人を敬う気持ち、謙虚さ、国が一丸となって何かを成し遂げようとする国民の連帯感が必要なのだと気づきました。日本は、本当に全ての意味で楽園であり、JICAの援助を通して得たこの経験は、一生忘れられない思い出になると思います。
- 5週間、物凄く忙しかったが、楽しく過ごすことができた日本での滞在に対し、JICAとKITAのスタッフ、私達の研修や見学を受け入れてくれた企業、忙しい合間を縫って講義を引き受けてくれた講師の皆様、そしてコースリーダー、コーディネーターに感謝申し上げます。
- 私達は皆様を愛しています。そして、日本を愛しています。

～ドウモ アリガトウゴザイマシタ～

6. 研修思い出アルバム

